



みんなで創る地域の学びの風景

ープロジェクトのスタートにあたってー

東海市立平洲小学校のあり方検討委員会 勉強会
2026年6月19日 名古屋市立大学 鈴木賢一

プロジェクトのスタートにあたって

ー令和16年度開校に向けー

01~02 どこにいるのか

これまでの学校の特徴
規格と均質と固定

03~07 どこへ向かうのか

学校づくりの課題と方向性
地域の広場へ

08~10 どうしたらよいか

プロジェクトの進め方
共創の仕組み

自己紹介



専門は建築計画学

人が快適に過ごせる

建築デザインの基礎理論

建築×こども



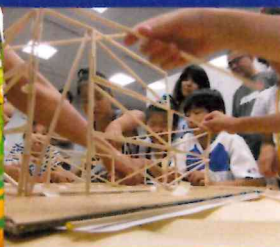
学校建築

主体的な学びを
支援する学習環境づくり



病院建築

不安やストレスのない
療養環境づくり



建築学習

こどもの建築・
まちづくり学習の
プログラムづくり



名古屋市立植田東小学校



亀山市立関中学校



日進市立篠の山小学校・日進北中学校

施設一体型小中一貫校

飛島村立飛島学園（義務教育学校）

名古屋市立笹島小中学校（小中連携）

日進市立竹の山地区小中学校（小中連携）

瀬戸市にじの丘学園（小中一貫）

泉南市西信達小中学校（義務教育学校）

桑名市多度学園（義務教育学校）

複合施設

名古屋市立橘小学校

豊田市立浄水中学校

豊田市立寺部小学校

高浜市立高浜小学校

住民参加型設計

名古屋市立植田東小学校

豊田市立浄水北小学校

志摩市立東海小学校

木造

豊田市立巴ヶ丘小学校

南越前町立今庄小学校

亀山市立関中学校

環境共生型学校

豊田市立土橋小学校

瑞浪市立瑞浪北中学校

01 学校の建築としての特徴



病院や学校は規則が多く、
ストレスフルな空間になりがち

学校の場合

人間、時間、空間がマスで区切られている

時間：マス目に区切られた時間割

人間：学年とクラスで区切られた学級

空間：四間×五間の壁で区切られた教室+廊下

学校建築の7不思議

教室は南側、廊下は北側

教室に前と後ろがある

教室に硬い椅子、校長室にソファ

校舎の端っこに特別教室がある

学校にプールがある

学校の体育館に舞台がある

学校は全国みな同じ

標準設計による学校建築

義務教育を機能的に運営する仕組み

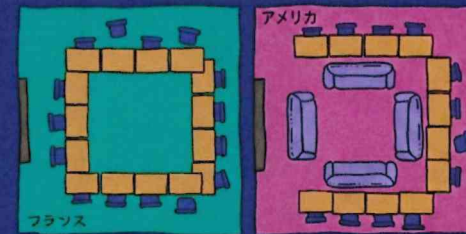
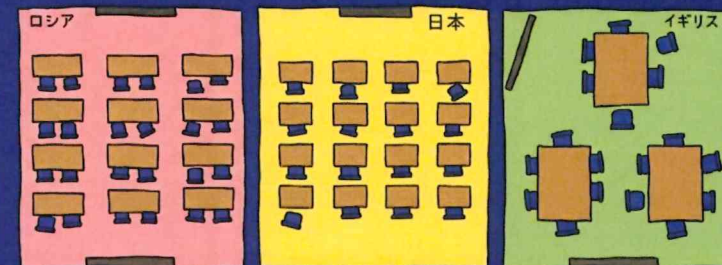
学級編成×学ぶべき内容×必要時間数

全国一律の教育を実施できる環境

基準に従った運営 (学習指導要領) × 同一規格の建物 (補助金×標準設計)

多機能なスペースの集合

学校は、街であり、都市である

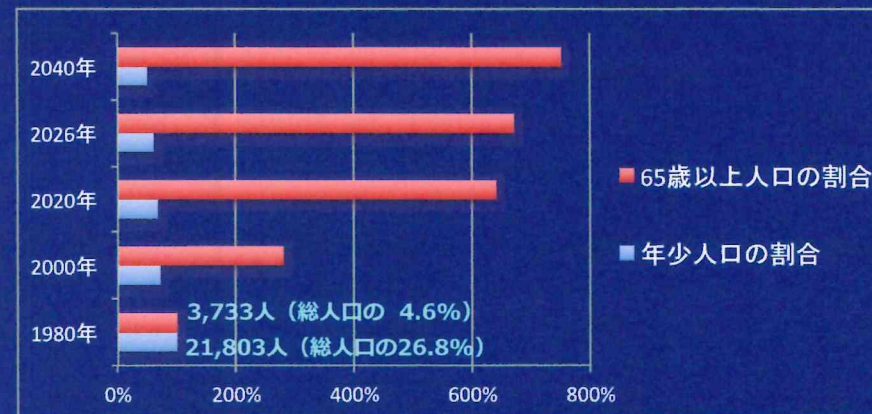


国によって異なる机配置

02 学校建築の計画の背景



	高度経済成長期 (1950~70年代)	少子高齢社会 (現在~未来)
社会的背景	児童生徒の急増 都市集中	児童生徒の減少 地域の高齢化 学校統廃合
地域との関係	地域から独立した 教育専用空間	多世代が交流する 地域の拠点
教育のあり方	一斉授業 知識伝達型	個別最適化 協働学習



東海市の1980年の人口を100%とした場合の比率

児童生徒数（年少人口）と高齢者数の年代別割合の変化

「個人の知識習得」 → 「個人と社会の幸福」



OECD（経済協力開発機構） LEARNING COMPASS 2030

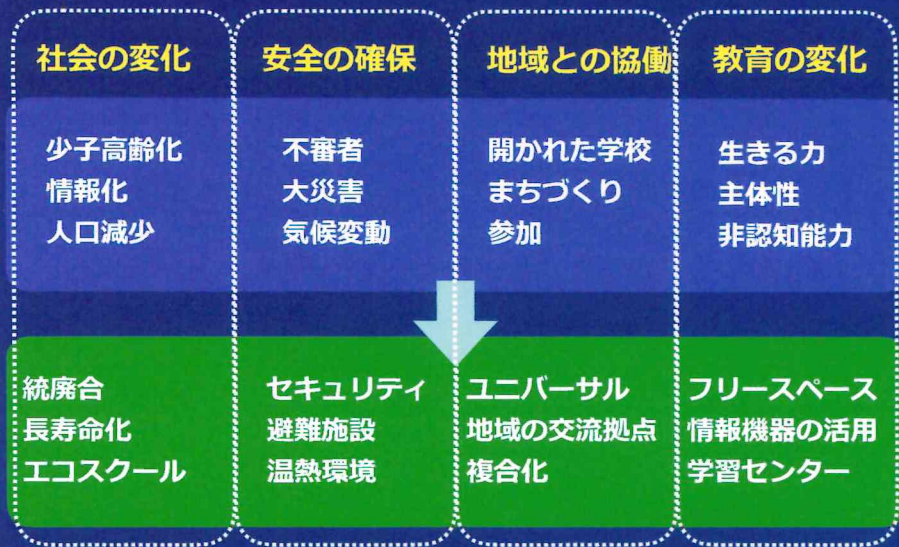
学校は「子どもたちを効率よく社会へ送り出す施設」から、「地域住民が集い、ともに育ち、コミュニティを再生するための広場」へ。

ー 次世代学校施設整備のグランドデザイン（文部科学省）

次世代学校施設の4つのビジョン

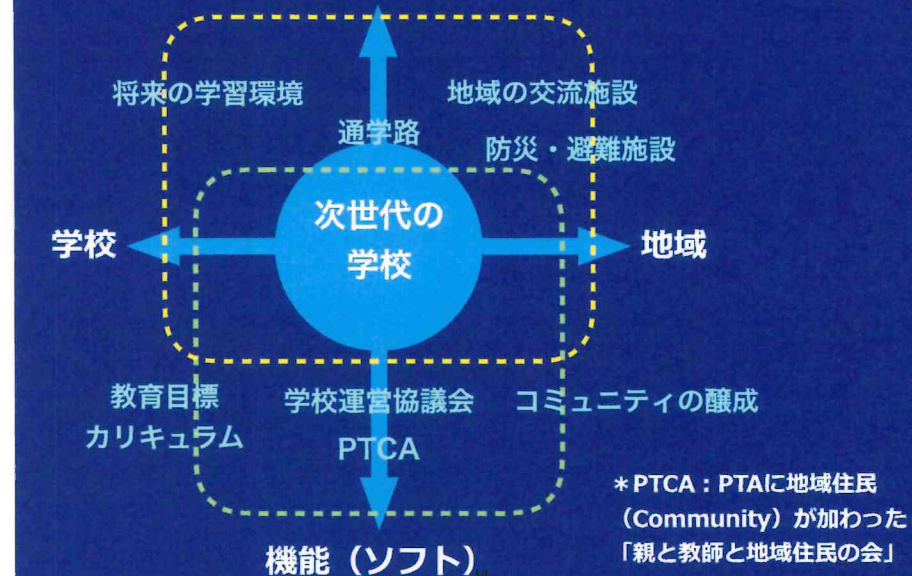
1. 学びの空間（教育環境の高度化・新時代対応）
2. 絆の空間（地域コミュニティの核・多世代交流）
3. 安全・安心の空間（防災拠点の機能強化・長寿命化）
4. 環境の空間（脱炭素・木材活用・エコスクール）

多様化する学校の計画条件



13

計画課題の広がり



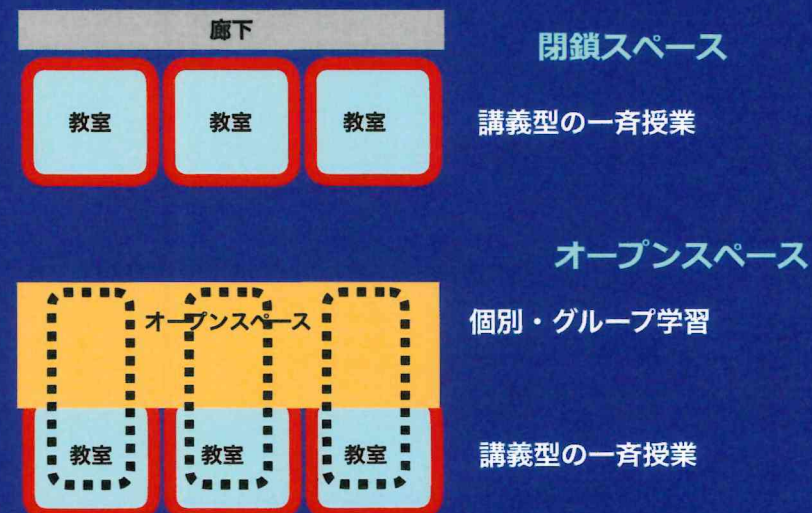
03 学ぶ意欲を促す環境

Creative School



- 1. 教室から学習スペースへ**
 自分のペースで学ぶ (時間枠の流動化)
 「講義を聞く」から「考えてやってみる」
 情報源の高度化・多様化、体験性と身体性
- 2. 学習プロセスに対応して繋がるスペース**
 自分の好きな場所で学ぶ (空間枠の選択化)
 活動にふさわしい場所を選択できる
- 3. 多様な集団活動に対応したスペース**
 多様な人と学ぶ (人間枠の多様化)
 個人とグループ、集中と交流

クラス単位での学習



複数クラスでの学習

個別・グループ学習

講義

学年ユニット

個別・グループ学習

図書

実験・工作

個別学習

グループ学習

講義

教科横断型 (STEAM)

- 科学 (Science)
- 科学技術 (Technology)
- 工学 (Engineering)
- 芸術 (Art)
- 数学 (Mathematics)



教育環境から学習環境



少人数、グループ、個別学習



情報源の高度化、多様化



体験性と身体性の見直し

学ぶ意欲を促す環境



直接体験の重要性



STEAM探究学習



クラス一斉でなければ、

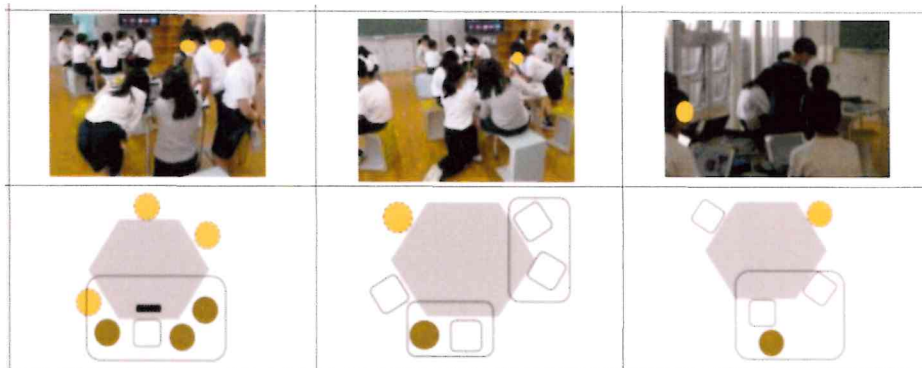


作業プロセスの見える化

特別教室のオープン化 (教科を超えた探求学習)

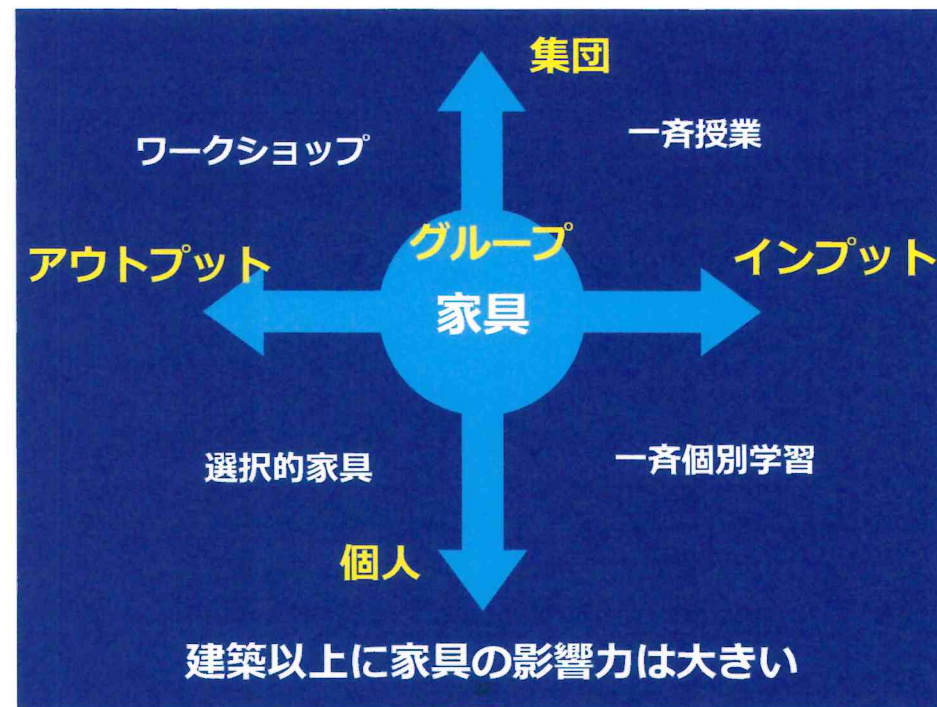


名古屋市立山吹小学校：「ナゴヤ学びのコンパス」を掲げ、
イエナプランをモデルとする自由進度学習に取り組む



岐阜市ではすべての小学校に、
アクティブラーニング室（アゴラ）を設けた
グループ用のテーブルは話し合いに有効であり、
背もたれのない椅子は体の向きを変えるのに有効

古谷博子、鈴木賢一、小学校の既存教室に導入したグループ用家具と授業展開に関する研究、日本建築学会計画系論文集 第88巻 第810号, 2261-2270, 2023年8月



瀬戸市立にじの丘学園



小牧市立小牧南小学校



瑞浪市立瑞浪北中学校

校舎の主要動線上に配置
された開放的学習センター
は、学習の動機づけと、
学年・クラスを越えた交
流を生み出している



いなべ市立石榑小学校



日進市立竹の山小+日進北中



瀬戸市立品野台小学校



東郷町立兵庫小学校

校舎と一体となった学びのランドスケープ



名古屋市立中学校内の
フリースクール



川崎市立新小倉小学校の
カームダウンスペース



粕江第三小学校の特別支援学級



豊川市立一宮西部小学校の
みんなのトイレ

特別支援、ダイバシティにどう応えるか



横浜市立十日市場小学校



いなべ市立石樽小学校



群馬県九十九小学校



名古屋市立植田東小学校

快適で明るいトイレ、交流のスペース

04 居心地の良い環境

Human School



自分の居場所と認識できる安心感
快適な生活スペース（食事、排泄、着替え）
小さな空間と大きな空間
内部の教室とつながる外部空間



群馬県九十九小学校



新城市作手小学校



いなべ市立石樽小学校



福岡市立博多小学校



横浜市立十日市場小学校



名古屋市立植田東小学校

デン（DEN）：隠れ家、巣穴



埼玉県志木市立志木小学校



佐世保市立清水小学校



いなべ市立石榑小学校



広島市立矢野小学校

外部空間の重要性の再認識



子どものためなら、



一息つくこともできない



大型化する事務機器



ストレス低減と創造性の向上

教師が楽しく元気に働く職場環境

05 教師・支援者が元気に働く職場環境 Work Place for Teachers



業務効率の改善

ストレスの低減

創造性の向上

女性の職場

多様なサポートの居場所

心理や福祉に関する専門スタッフ

スクールカウンセラー

スクールソーシャルワーカー

授業を支援する専門スタッフ

ICT支援員

学校司書

外国語指導助手

地域のサポートスタッフ

部活動の専門スタッフ

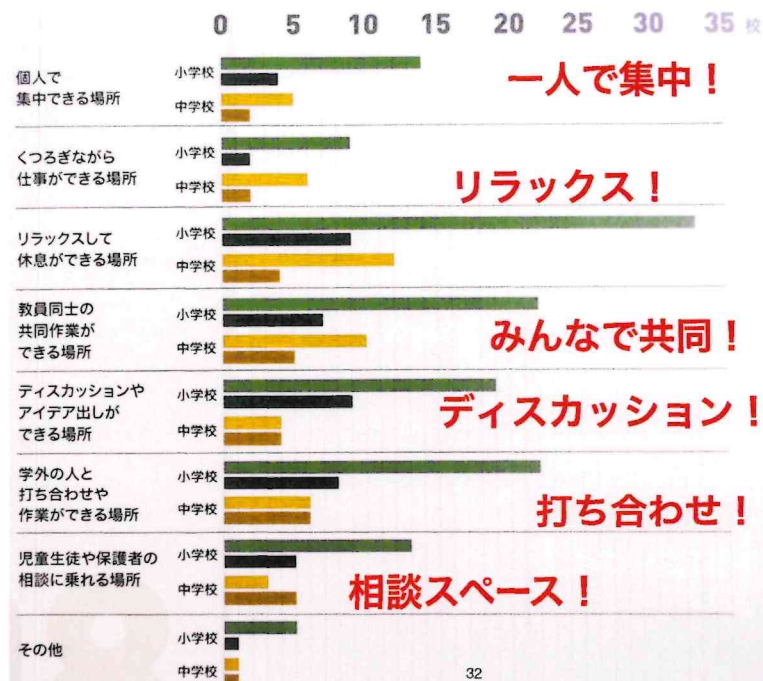
部活動指導員

特別支援教育の専門スタッフ

医療的ケアを行う看護師

特別教育支援員

PTA・地域ボランティア



こんな場所あるといいなあ

06 地域との連携、学校の有効利用 Community School



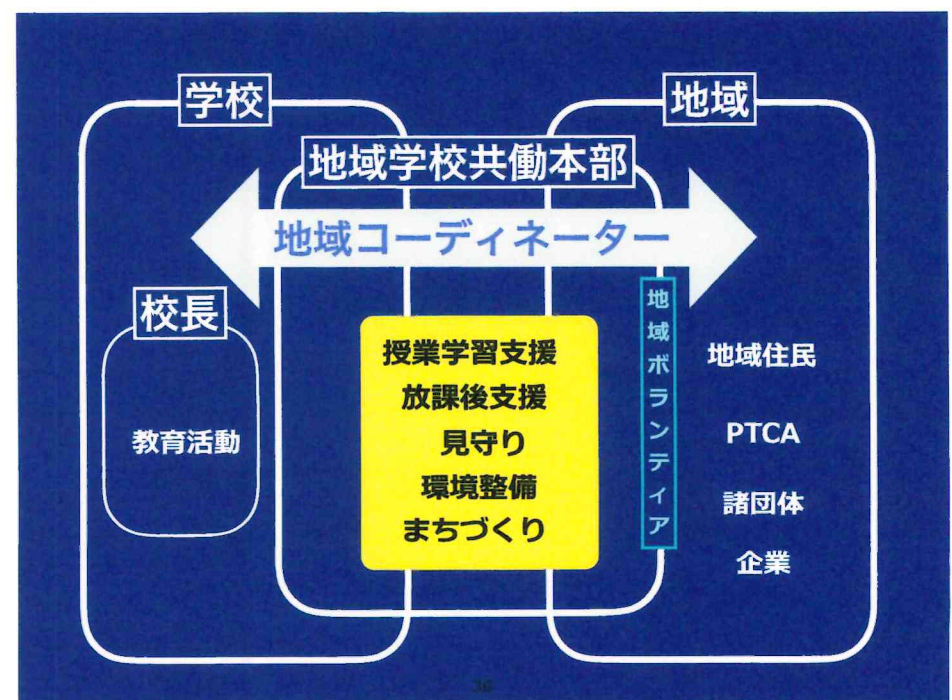
音楽室・家庭科室
地域の方も利用

メディアセンター
地域の方も利用

地域共働本部
正門からすぐ入れる

地域が学校を支える
地域と学校をつなぐ人材
地域住民が常駐できる

豊田市立浄水北小学校



瀬戸市立品野台小学校



埼玉県吉川市立美南小学校



武蔵野市立大野田小学校



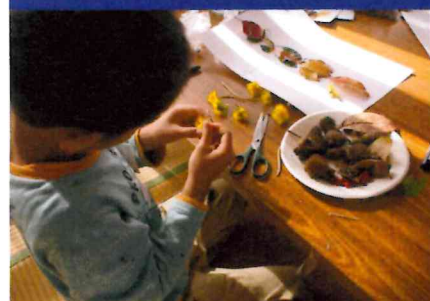
富山市立新庄北小学校

開放的な職員室

地域住民が常駐できるスペース

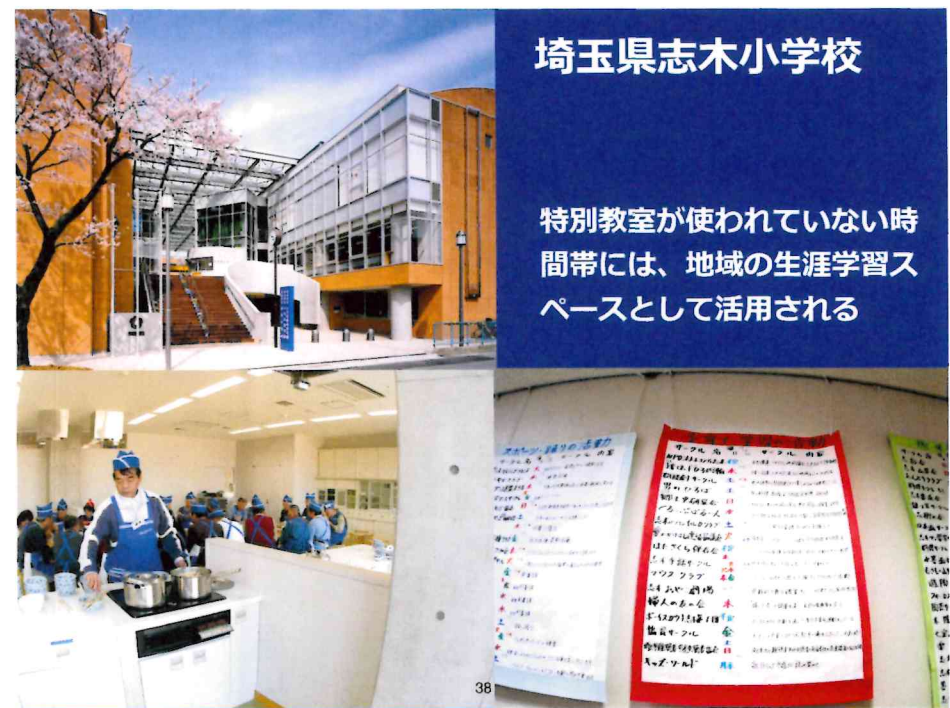
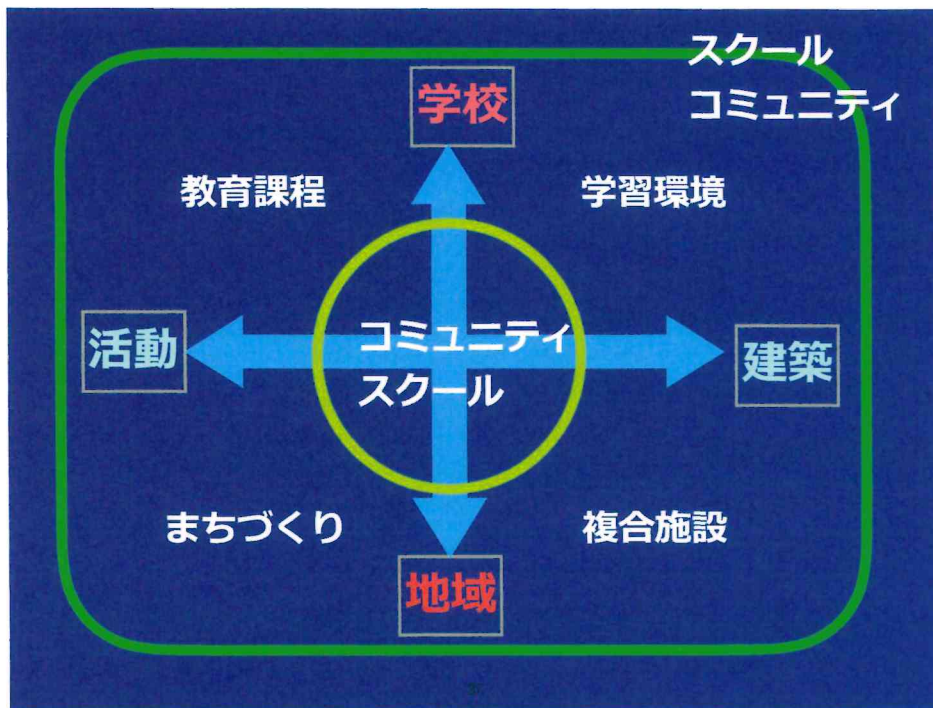


地域が学校を支える



地域と学校をつなぐ人材

地域との連携





平洲小＋平洲中を
同じ敷地に居を構える
2世帯住宅に例えると・・・

母屋＋離れとするか、1軒に同居するか
どんな生活をしたいか？
何を共有できるか、専有すべきか？
玄関、リビング、水周り・・・

08 平洲プロジェクトの課題 Challenges of the Heishu Project



小学校と中学校の連携教育

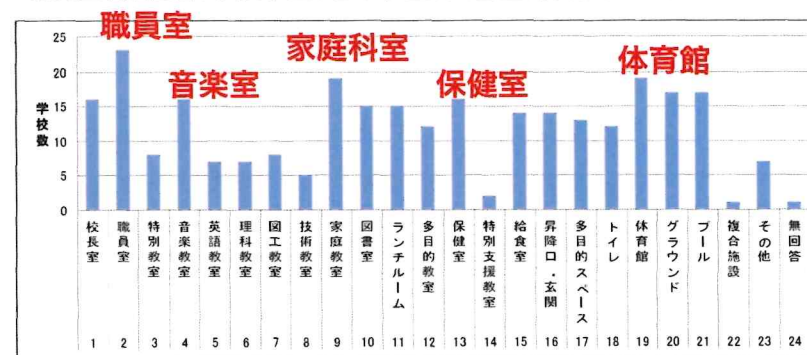
建物は小学校（新設）と中学校（既設）の連携

2つの敷地

先進事例に学ぶ

施設一体型校舎に関するアンケート調査(4)

- 小中共有化を図った施設（複数回答）
 - ・ 共有化とは小中が所有する部屋を相互に利用すること
 - ・ 共有化の目的は小中連携の効果をより一層発揮すること
 - ・ 共有化がそのまま面積の節約にならないことに留意
 - ・ 職員室、保健室、家庭教室、音楽教室、図書室、体育館、グラウンドが上位

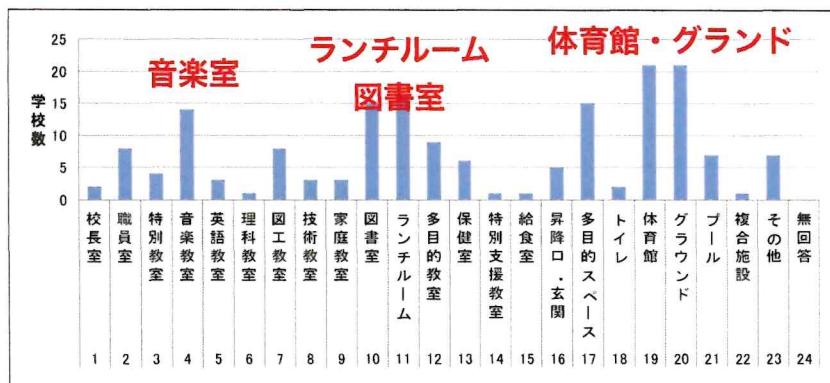


※ 3 特別教室は、4～9の室以外の特別教室をいう。

施設一体型校舎に関するアンケート調査(5)

■ 異学年交流の場（複数回答）

- ・ 小中の異学年交流は小中一貫教育の特色の一つとして重要
- ・ 体育館、グラウンド、ランチルーム、図書室、多目的スペース、音楽教室が上位



※ 3 特別教室は、4～9の室以外の特別教室をいう。

7



国立教育政策研究所文施設研究センター
National Institute for Educational Policy Research / Educational Facilities Research Center

学校組織の再構築の良い機会

1. 小学校6年制+中学校3年制を活かす
小、中単独ではできなかったことが可能になる
2. 教師と教育支援者によるチーム学校
心理・福祉、授業、部活、特別支援
3. 地域と一体となった学校運営体制
コミュニティスクールからスクールコミュニティへ

小中連携教育

小学校と中学校が情報共有や交流を通じて、**連携・協力して教育を行う体制**

小中一貫教育

小学校から中学校までの一貫した教育課程に沿って計画的に教育を行う体制

小中一貫型小学校・中学校（6+3年制）

小、中の独立組織で運営

義務教育学校（9年制）

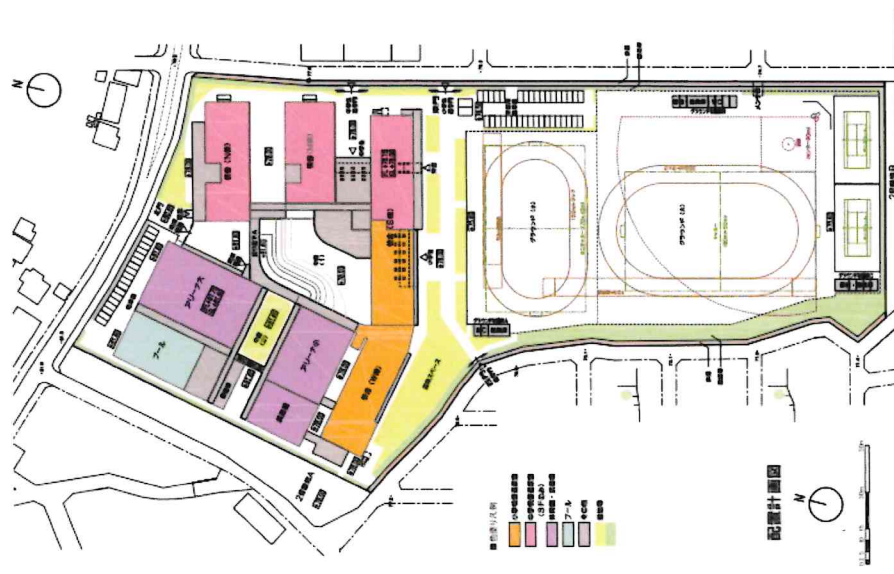
一体の組織で運営

日進市立竹の山小学校

日進北中学校（小中連携校）



平成20年度「竹の山地区新設校基本構想」にて、小中単独では得ることの出来ない複合効果を引き出す校舎一体型施設の構想を取りまとめた。平成25年4月開校



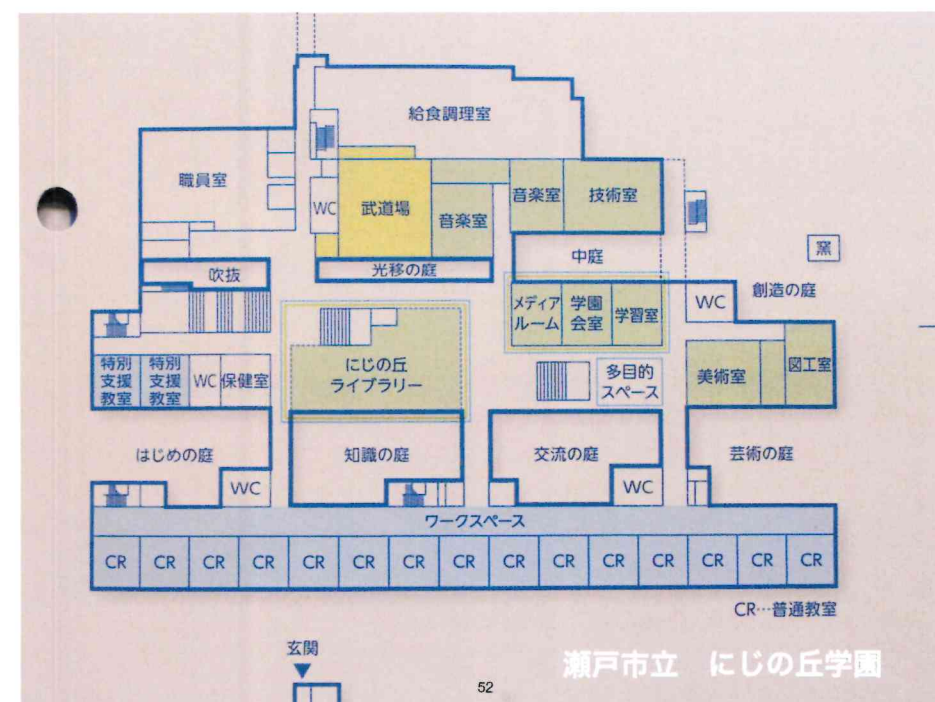
49



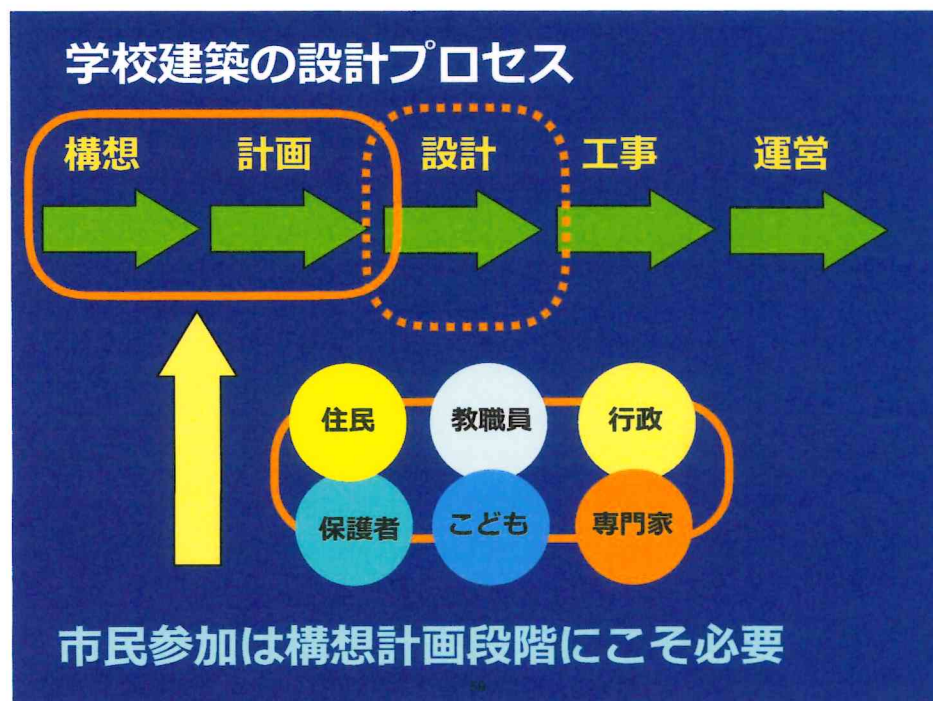
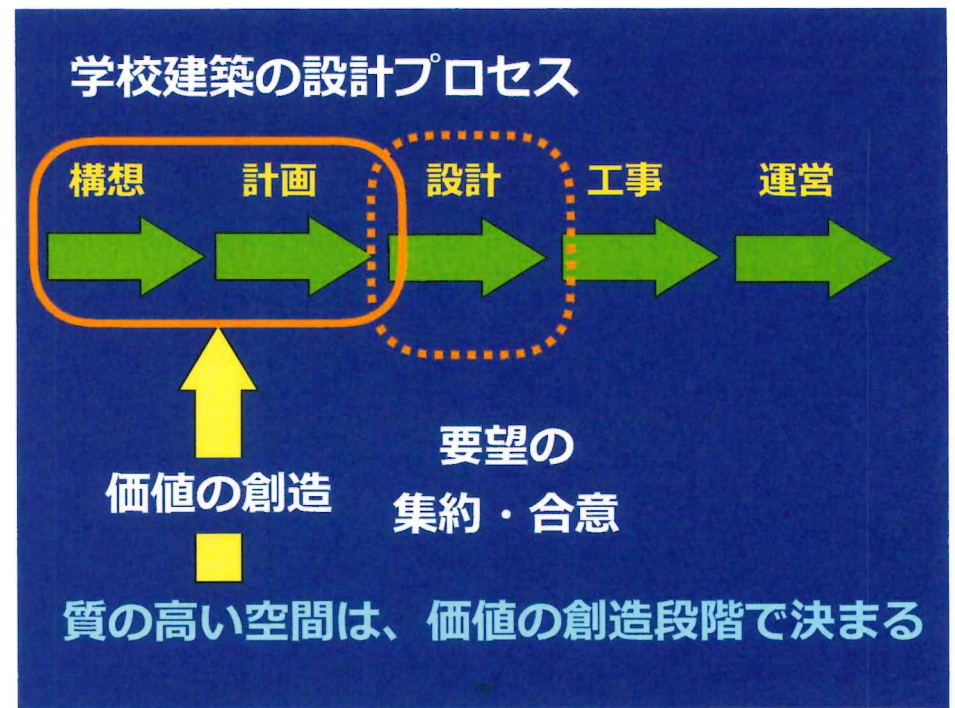
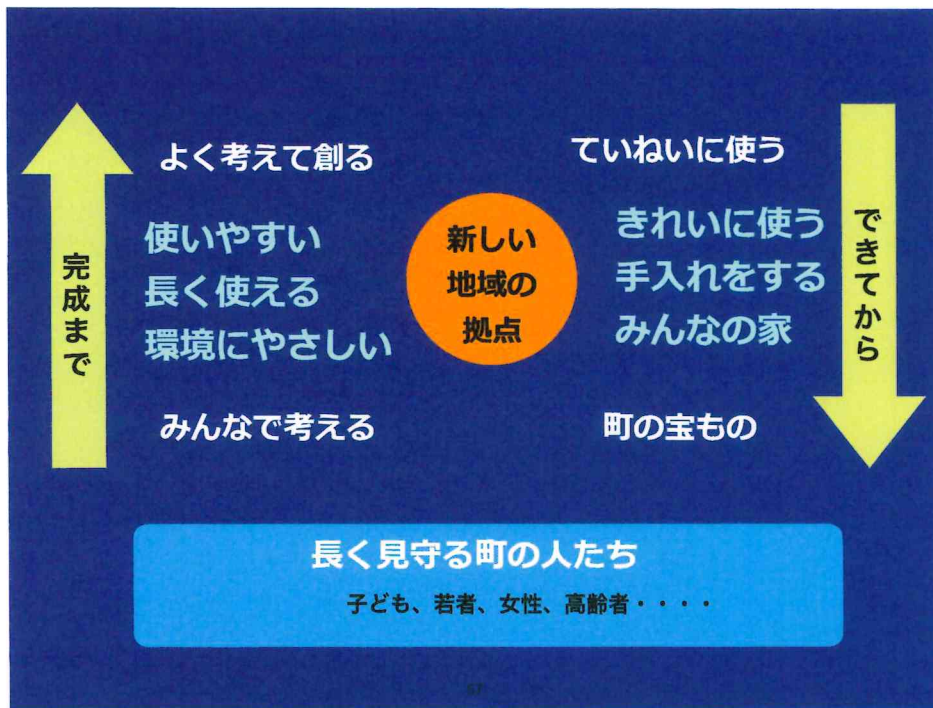
瀬戸市立にじの丘学園

(小中一貫校)

5つの小学校と2つの中学校を統合し、
新たな小中一貫校が設立された



52



10 プロジェクトのキックオフ

Project Kickoff

平洲の良さを再確認し、将来を想像する

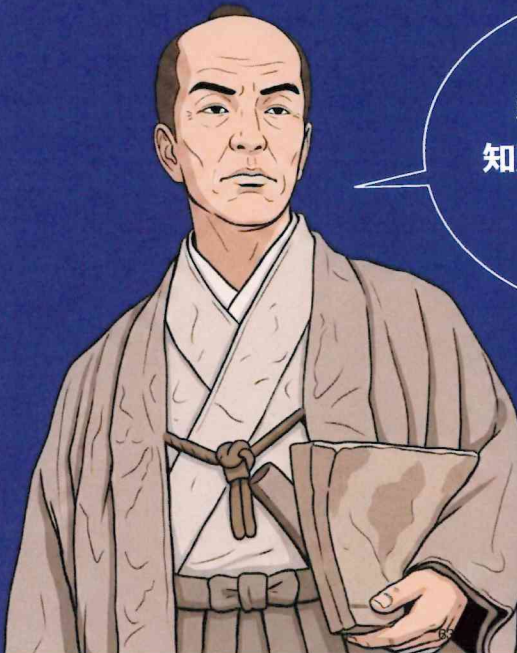
平洲コミュニティ地区らしいヒント
子どもが少なく、高齢者が多くなる

現在の学校機能の維持に固執しない

「こうあるべき」から「こうしたい」へ
拠点施設のシンボリックな広場を目指す

知恵を集めて平洲らしい学校づくりを

自分の得意技を武器に参加する
参加の仕方はそれぞれに



東海市の
新しい学校を
知恵を出し合って
考えよ

私たちの本気度、
団結力が試されています

学校づくりは
地域に投げかけられた
将来のまちづくりの試金石

将来の見通しがきかない現在にあって、
地域の未来をみんなで考えるために
投げかけられた探求課題であり、
新しい時代の地域の基盤を創造する機会

ありがとうございました

ご感想の記入、よろしくお願いします。

